

なし「幸水」の収穫後の新梢管理法

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹部

研究のねらい

温暖多雨条件下にある本県のなし樹の生育は旺盛で、新梢停止期が遅れて徒長しやすく、枝梢は過繁茂となって果実品質低下、発育枝の充実不良、花芽分化不足を来し生産不安定の大きな要因となっている。

そこで、平成4年に明かにした幸水の好適生育相の指標化への誘導技術の一つとして収穫後の新梢管理法、特に幸水の秋季剪定の時期と方法について検討した。

研究の成果

1. 幹周及び長果枝肥大
幹周の肥大は、秋季に20%、40%の剪定を実施することによって慣行区よりも抑制され、長果枝の基部肥大も40%剪定によって抑制される傾向がみられた。
2. 花芽の肥大
秋季剪定程度別では40%が大きく、次いで20%、慣行の順で、秋季剪定程度が強いほど肥大は良好であった。剪定時期別では9月剪定が大きく、次いで10月剪定、慣行の順であった。
3. 果実品質(果実肥大、果形)
秋季剪定程度別での果実の肥大は20%が40%、慣行より良好であった。硬度、果皮色については処理間の差は認められなかったが、果形は20%、40%が慣行より良好であった。
4. 剪定時期別での果実肥大は9月剪定が大きく10月剪定と慣行は大差がなかった。糖度、硬度、果皮色については一定の傾向は認められなかったが、果形は両園とも処理区の方がやや良い傾向がみられた。
5. 以上の結果、樹勢が旺盛な樹では収穫後、秋季に徒長枝を中心に剪定を実施することによって樹勢調節や過繁茂防止に役立ち、花芽の充実及び次年度の果実肥大、品質にプラスに働くものと思われるが、その際の秋季剪定時期としては9月がよく、剪定程度としては新梢数の20%程度にとどめる。

普及上の留意点

秋季の剪定は樹勢を弱めやすいので、樹勢の旺盛な樹にのみ実施する。

第1表 収穫後の秋季剪定の程度の違いと幹周及び基部径肥大（幸水）

項目 時 期	幹 周 肥 大			長果枝基部径肥大		
	H3.9/10	H4.9/14	肥大率	9/10	12/4	肥大率
秋季剪定 20%	cm	cm	%	mm	mm	%
40	29.6	33.6	113.5	9.66	10.75	111.3
慣行 0	29.7	34.2	115.2	9.97	10.53	105.6
	29.6	34.8	117.6	10.58	11.69	110.5

注) 剪定の程度は、50cm以上の新梢数に対する割合で、慣行無剪定、20%、40%、の区を設け、徒長枝を中心に不要と思われる枝を除去した。(第2、4表も同じ)
基部径肥大：樹当たり10本の長果枝にマークして調査、3樹平均値

第2表 秋季剪定の程度と花芽の肥大（横径）

剪定程度	短果枝	腋花芽	平均
	mm	mm	mm
20%	5.18	4.74	4.96
40	5.28	4.83	5.06
慣行	4.89	4.58	4.74

第3表 秋季剪定の時期と花芽の肥大（横径）

剪定時期	短果枝	腋花芽	平均
	mm	mm	mm
9月	5.18	4.74	4.96
10月	5.19	4.53	4.86
慣行	4.89	4.58	4.74

注) 9～11月の剪定程度は50cm以上の新梢数の20%を除去した。(第5表も同じ)

第4表 秋季剪定の程度と果実品質

剪定程度	1果重 (g)	糖度 (Brix)	酸 (PH)	果皮色	果形
20%	315.7	12.0	5.64	3.1	2.9
40	300.1	11.6	5.74	3.1	2.9
慣行	301.6	11.9	5.81	3.1	2.7

注) 果皮色:カラーチャート(地色)による
果形:5段階評価(5:良、3:中、1:不良)

第5表 秋季剪定時期と果実品質

剪定時期	1果重 (g)	糖度 (Brix)	酸 (PH)	果皮色	果形
9月	364.8	12.5	5.84	3.1	2.87
10月	347.8	12.5	5.96	3.4	2.81
慣行	347.2	12.4	5.84	3.0	2.73

注) 果皮色:カラーチャート(地色)による
果形:5段階評価(5:良、3:中、1:不良)